国際教室だより

2026. 11. 26　　上宇部小学校　国際教室担当

「ことばのヤングケアラー」 ～ 著者の 講演を聴いて ～



「ことばのヤングケアラー」クリエイツかもがわ出版

広島で開催された「ことばのヤングケアラー」著者による講演を聴きに行きました。

アジズ・アフメッドさんは９歳で来日。**日本の学校で苦労した**ことを振り返り、**どのようなサポートがあるとよかったのか**　エピソードを交えて話してくださいました。

初めて給食当番を見て、何をするのかわからなかったこと、注目されないよう「透明人間のように目立たずにいよう」と心がけていたこと…など、声掛けのヒントになりそうです。

中でも著書になっている「ことばのヤングケアラー」についての苦悩には、深く考えさせられました。

「家族の通訳」という重荷を 子どもに担わせるべきではない

ヤングケアラーとは**「本来、大人が担うべき家事や家族の世話を日常的に行っているこども・若者」**のことです。その中には**「日常的に通訳をしているこども」**も入っています



こども家庭庁「ヤングケアラーについて」より



・ パキスタン出身。9 歳で来日。
　日本語がわからない中で生活をスタート。
　家族の通訳や手続き対応を担う「ことばのヤングケアラー」としての経験をもつ。
・ **外国にルーツをもつ子どもたちの見えにくい負担を社会課題として発信。**
・ ことばのヤングケアラーや多文化共生の課題に取り組み、講演会・研修・教材開発などを展開している。



アジズ・アフメッドさん

親と学校、親と病院、親とほかの親、親と地域…通訳として、さまざまな場面ではざまに立たされ、精神的、時間的負担を強いられたそうです。

ただ単に聞こえた言葉を訳すのではなく、

親が安心するように、

両者の気持ちを全部読み取って取り次ぐ行為は**「感情労働」**だったと言います。そしてそれは**「心の傷」**となり、長いこと抱え続けている、と…。

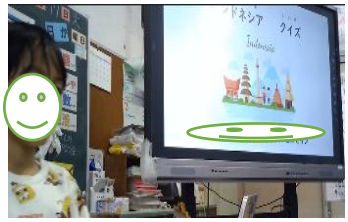
本校にも、外国ルーツの子どもたちがいます。

子どもに関わる私たちは、

大人として責任あるコミュニケーションを請け負う必要がある、と改めて強く感じました。

初めての学級スピーチ　～ この日までの道のり ～

本人も大興奮！とっても嬉しそうでした。







2年生のHIさん、ついに学級でスピーチすることができました！
入学当初は、まず学校に慣れるまで、かなり時間がかかりました。
母語でも日本語でも、なかなか会話が成立しない日々が続く中、**学級でスピーチできる日が来た**ことに、感激で胸がいっぱいです。
いつも寄り添っておられる担任の先生や、1年の時の学級での確かな居場所、そして2年の学級の温かさに支えられ、今も成長を続けています。









初めは、泣いて学校から帰りたがる！



1年生の時は国際教室ではなく、児童棟の空き教室で取り出し授業。

粘土、絵カード、楽器、絵本…。様々な教具を試す。

母語ではないが、英語の発語あり。英語の絵本、歌本の読み聞かせにハマる。



日本語の絵本も大好きに。ひらがなに関心を持つ。

読み書きができるようになる。

耳コピで日本語の発語が激増。

イラストカードでたくさんの語彙を習得。



1年生Yさんのインドネシアクイズスピーチ動画を見て、イメージを持つ。

スピーチ原稿を何度も読み聞かせ。耳コピで言えるようになる。



Hくん、家ではインドネシア語で
少し受け答えできます。
でも、スピーチ動画を見てびっくり！
こんなに日本語がすらすら話せるなんて！



HIさんのお姉さんの感想

HIさんを理解し、いっしょに学んでくれる温かい学級で、安心してチャレンジできました。